

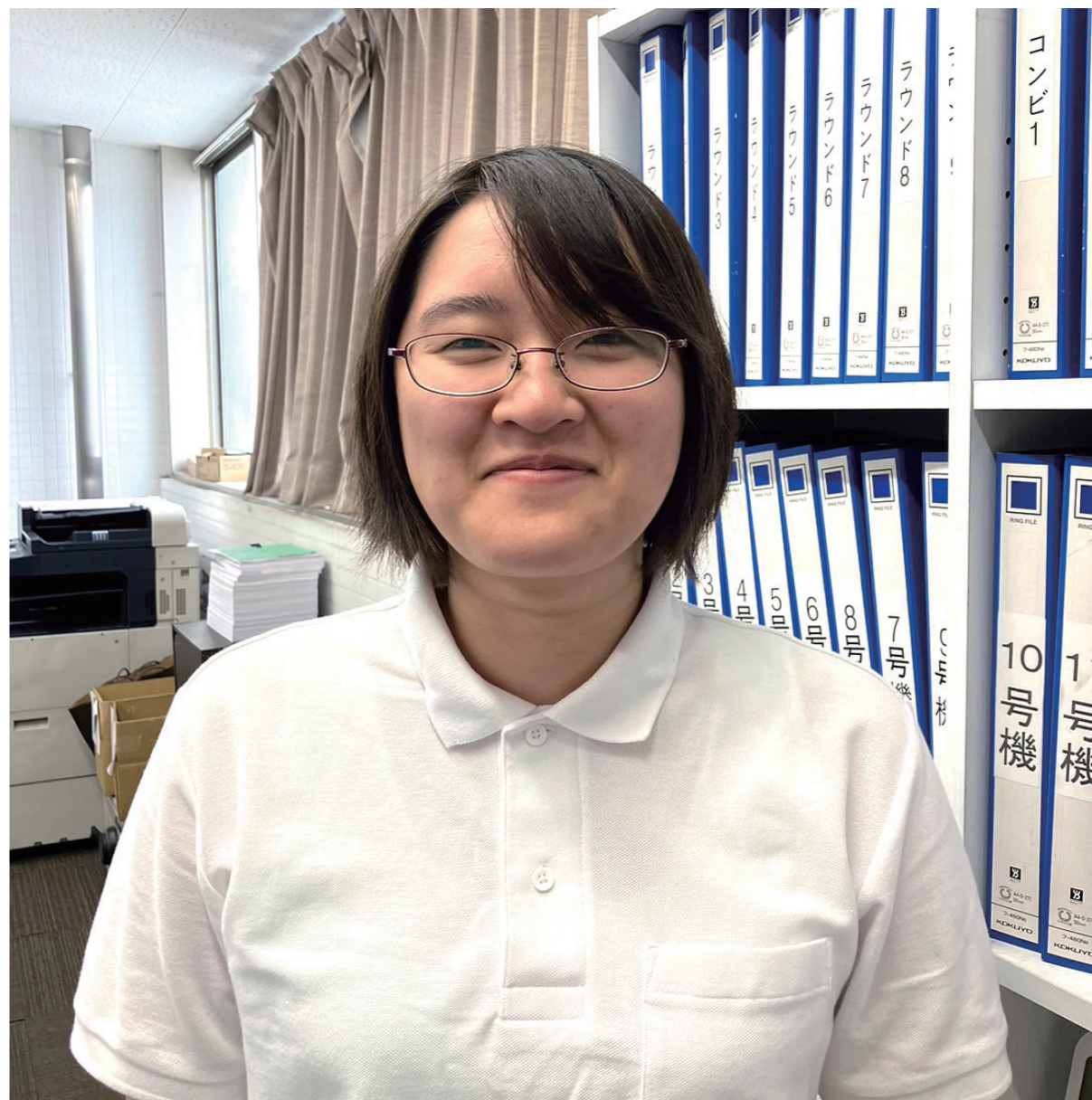
旭

印刷を支え加工を活かす

中村 響

瓜破工場 生産管理課

中村響さんは、「印刷や製本業界を目指したのは、本が好きだから」という理由で高校卒業後に旭紙工業株式会社へ入社しました。現在の所属は瓜破工場の生産管理課。どのような業務に携わっているのでしょうか。仕事上のこだわりや苦労した経験を伺いながら、中村さんの働きぶりに迫ります。



旭紙工に入社したきっかけは、本がお好きだったからだそうですね。

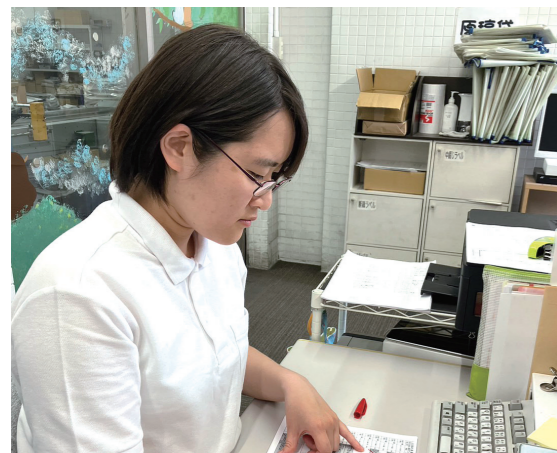
そうなのですが、実をいうと、子どものころは文章を読むのが好きではありませんでした。小学生のころに父親に勧められた本がとてもおもしろく、それから読書の習慣がついたのです。学生時代はテレビドラマの原作小説やアニメーション化された作品も多い電撃文庫がお気に入りでした。このようにずっと本に親しんできたので、製本にかかわる仕事に自然と興味を持ったのです。旭紙工は自宅から比較的近く、通いやすいのも入社の決め手になりました。

現在の業務内容と、仕事をすすんでいこうとしていることがあれば教えてください。

製造現場で1日にこなす作業のラベル作成と、製造にあたってのサンプルの問い合わせを主に担当しています。

こだわっているのは、現場向けの明細を作成する際、わかりやすいようにしたりするための、誰が見ても作業内容がわかるようなマニュアルを作りたと思っています。すでに着手しているのですが、重要な点がたくさんあって、予想以上に時間がかかっています。最終的にはノート1冊分くらいのボリュームになりますが、通常業務の合間に少しずつ進めていくつもりです。

営業担当者と製造現場の仲介役として、責任をもって業務にあたって中村さん。マニュアル作りにも自主的に取り組み、業務改善に貢献しています。趣味の読書やゲームで英気を養いながら、これからも会社の発展に力を尽くしていくことでしょうか。



葉に編集すること。作業内容が書かれた指示書のなかには、解読が難しいものも多いのです。そのまま製造現場に渡してしまうと、スムーズに作業が進まないで、私が先に内容を解読して、新たに明細を作成しています。人によって解釈が変わるような表現はなるべく使わず、正しく作業ができるように意識しています。また、文量が多い指示書では、必要な内容がばらばらに記載されていることもあるので、できるだけ要点を1枚にまとめるように心がけています。

プライベートではなにをして過ごされていますか。よろしければ、仕事との両立方法についても伺えれば。

休日は大好きなアニメーションを見たりゲームをしたりして過ごしています。ゲームは友人と一緒にプレイすることも。ただ、最近はお互

苦労した経験はありますか。また、それをどのように乗り越えたかお聞かせください。

私は営業担当者と製造現場の間に立って、それぞれからご要望をいただく立場。双方の板挟みになって、解決策をなかなか見出せずに苦労することがあります。また、自分では理解できない内容の問い合わせが来たときも苦慮していますね。

そのようなときは一度冷静になって、内容をしっかり理解してから対処するようにしています。正しく理解していないと、相手を誤った方向に誘導してしまったり、説明に時間がかかったりして迷惑をかけてしまいますから。まずは自分で調べて、それでもわからない場合は誰かに聞いて解決にあたっています。



いが忙しくなってきたり、なかなか集まらないので、基本的には1人プレーですね。両立方法は、具体的にこれというものは無いのですが、プライベートでの楽しみがあるからこそ、仕事もがんばれているのかなと思っています。

最後に、今後の仕事に対する目標や意気込みをお聞かせください。

一番の目標は、業務の効率化。そのためにも、もっとスキルアップしていきたいと考えています。あとは今後、私が休んだり部署異動になっ

企業情報

- ◆ 創立年：1983年1月
- ※ 創業：1963年
- ◆ 年商：17億円
- ◆ 従業員数：200人

部署紹介

Department Introduction



4年の軌跡

本社工場 無線縫じ部門編

4年前に実施した部署紹介。あれから月日経ち様々な変化がありました。ここでは部署ごとにその変化をみていきます。今回は本社工場の無線縫じ部門です。

業務体制の変化

カレンダーの製本が始まって以来、時期によって費やす時間が異なり変動があるため、本社工場では別の部門の方がヘルプにくる体制になりました。より効率的な方法を模索した結果です。また、元々無線縫じの機械は第2工場にあり、そこは無線縫じ単独でした。本社工場には様々な部門が所属しているからこそ、現在の体制で進められているのでしょう。

本社工場 工場長
ありまつ けんじ
有松 健二さん

2020年からの変化

2020年

仕事量が大幅にダウン

やはり仕事の量が減りました。そのため入社して間もない新入社員が1か月できる仕事がないという時期もありました。その中でも、目の前にある仕事をとにかく一生懸命に取り組むこと、変わらず声を掛け合うことを徹底しました。

2022年

ラインの増加

ずっと願っていたことでしたので、ラインが追加されたことはとても大きな出来事でした。

2021年

目の前の仕事に懸命に

売上が現在上がっていますが、これはこの時期に全員が諦めず、目の前の仕事に取り組んだ結果だと思っています。一人ひとりの一生懸命な行動がこうやって結果に結びついているのではないのでしょうか。

印象に残っている出来事

ラインが一つから二つに

これまでラインが一つであったことで、そのラインが故障した際のリスクがありました。今回二つとなったことでそのリスクが大幅に軽減されました。そう簡単に機械を取り入れることはできません。そんな中でラインを増やしてくださいましたので、しっかりとその分のリターンが出せるように取り組んでいきたいと思っています。

今後の目標

技術の伝承

私たちの仕事は少しでも多くの制作物を制作することで売上向上に繋がります。そのためには、生産性を上げて無駄な時間をなくすこと、そして一人ひとりの技術力の向上が必須の条件です。今後は一人ひとりのレベルアップのために、育成にも力を入れていきたいと思っています。

